

<日本史探究44-1> 室町時代②【講義編】

(1)室町幕府の組織(教科書：P.114～P.115)

①尊氏の子で2代将軍足利義詮よしあきらが没すると、1368年、その子の足利義満よしみちが将軍となった。幼い義満は、管領細川頼之かんれいよりゆきの補佐をうけ、1378年に京都の室町に「花の御所」と呼ばれる壮麗な邸宅をつくり、そこで政治を行った。

②この頃までには室町幕府の支配機構も完備し、京都の市政権や徴収権など、朝廷が持っていた権限も吸収した。将軍を補佐し、政務を統括する管領かんれいは、三管領さんかんれいと呼ばれた足利一門の細川しほ・斯波はたけやま・畠山はたけやまの3氏が交代で任命された。

③京都市内の警備や刑事訴訟を司る武士の統率機関である侍所さむらいどころの長官[所司しよし]は、四職ししきと呼ばれた赤松あかまつ・一色いっしき・山名やまな・京極きやうごくの4氏の中から任命された。守護は幕政に参加するため在京するのが原則で、領国には守護代しゆごだいを置いて統治させた。

④政所まんどころは幕政の財政事務を担当し、その長官は執事と呼ばれ、財政基盤ざいりやうしよは御料所ごりようしよと呼ばれた直轄領ちよつかつからの収入と、守護の分担金、地頭・御家人ぶかきんに対する賦課金であった。

⑤税には、田畑・屋敷に守護を通じて課された段銭たんせん・棟別銭むなべつせん、京都で高利貸を営む土倉どそうや酒屋さかやに課された土倉役どそうやく[倉役]・酒屋役さかや、交通の要所に設けられた関所などで徴収された通行税としての関銭せきせん・津料つりようなどがあつた。

⑥幕府は、将軍権力を支える軍事力の育成につとめ、古くからの家臣、守護の一族、有力な地方武士などを集めて奉公衆ほうこうしゆと呼ばれる直轄軍を編成し、御料所の管理も委ねた。

⑦幕府の訴訟審理機関は引付ひきつけで、問注所もんちゆうしよは幕府の訴訟関係書類の保管等のみを職掌とした。また幕府の地方機関の一つの鎌倉府は、関東八カ国かいていと甲斐かい・伊豆いず両国の支配を任された重要機関で、長官である鎌倉公方かまくらくほうには尊氏の子足利基氏もとあしと、その子孫が歴任した。それを補佐する関東かんとう管領かんれいは上杉氏うえすぎが世襲した。

(1)室町幕府の組織(教科書：P.114～P.115)

①尊氏の子で2代将軍(1)が没すると、1368年、その子の(2)が将軍となった。幼い(2)は、管領(3)の補佐をうけ、1378年に京都の室町に「(4)」と呼ばれる壮麗な邸宅をつくり、そこで政治を行った。

②この頃までには室町幕府の支配機構も完備し、京都の市政権や徴収権など、朝廷が持っていた権限も吸収した。将軍を補佐し、政務を統括する(5)は、(6)と呼ばれた足利一門の(7)・(8)・(9)の3氏が交代で任命された。

③京都市内の警備や刑事訴訟を司る武士の統率機関である(10)の長官[(11)]は、(12)と呼ばれた(13)・(14)・(15)・(16)の4氏の中から任命された。守護は幕政に参加するため在京するのが原則で、領国には(17)を置いて統治させた。

④(18)は幕政の財政事務を担当し、その長官は執事と呼ばれ、財政基盤は(19)と呼ばれた直轄領ちよつかつからの収入と、守護の分担金、地頭・御家人ぶかきんに対する賦課金であった。

⑤税には、田畑・屋敷に守護を通じて課された(20)・(21)、京都で高利貸を営む(22)や(23)に課された(24)[(25)]・(26)、交通の要所に設けられた関所などで徴収された通行税としての(27)・(28)などがあつた。

⑥幕府は、将軍権力を支える軍事力の育成につとめ、古くからの家臣、守護の一族、有力な地方武士などを集めて(29)と呼ばれる直轄軍を編成し、(19)の管理も委ねた。

⑦幕府の訴訟審理機関は(30)で、(31)は幕府の訴訟関係書類の保管等のみを職掌とした。また幕府の地方機関の一つの(32)は、関東(33)カ国と(34)・(35)両国の支配を任された重要機関で、長官である(36)には尊氏の子(37)と、その子孫が歴任した。それを補佐する(38)は(39)が世襲した。

(2)守護大名vs幕府(P.114~P.115,120)

①有力守護の中には、数カ国の守護職を兼ねる者が現れ、**足利義満**は、その有力守護を討伐することに力を注いだ。まず1390年、美濃・尾張・伊勢の3カ国の守護を兼ねる**土岐氏**を討った。これを**土岐康行の乱**という。

②翌1391[**明德**2]年の**明德の乱**で、11カ国の守護であったため、**六分一殿**と呼ばれた**山名氏清**を滅ぼした。その翌年に**南北朝の合体**を実現させた義満は、1394年には**太政大臣**にのぼり、公武で頂点に立つ権力を握った。

③1399[**応永**6]年に、周防・長門など6カ国の守護大名であった**大内義弘**は、**鎌倉公方**の**足利満兼**と結んで和泉国堺で反乱を起こしたが、**義満**の討伐を受け、敗死した。これを**応永の乱**という。

④1408年に義満が没すると、朝廷から「**太政法皇**」の尊号を贈られたが、これを後継者である**足利義持**が固辞した。また、1416年には前関東管領の**上杉氏憲**[**禅秀**]が反乱を起こし、4代鎌倉公方**足利持氏**に討伐された。これを**上杉禅秀の乱**という。

⑤1428年**足利義持**が急死し、翌年弟の**足利義教**が6代将軍となったが、将軍による専制政治を行い、たびたび幕府と衝突していた鎌倉公方**足利持氏**の反発を受けた。

⑥関東管領**上杉憲実**が**持氏**をいさめて対立すると、1438[**永享**10]年、**義教**は**憲実**を支援して討伐軍を送り、翌年に**持氏**が自害して、この**永享の乱**は終わった。乱後の1440年、**持氏**の遺臣である**結城氏朝**が、遺子である**春王丸**・**安王丸**を擁して反乱を起こしたが、鎮圧された。これを**結城合戦**という。

⑦しかし義教も、1441[**嘉吉**元年]年、幕府による有力守護圧迫を恐れた**播磨国守護赤松満祐**によって暗殺された。この**嘉吉の乱**で将軍の権威は大きく揺らいでいった。

(2)守護大名vs幕府(P.114~P.115,120)

①有力守護の中には、数カ国の守護職を兼ねる者が現れ、**(40)**は、その有力守護を討伐することに力を注いだ。まず1390年、美濃・尾張・伊勢の3カ国の守護を兼ねる**(41)**氏を討った。これを**(42)**という。

②翌**(43)**[(**44**)2]年の**(44)**の乱で、**(45)**カ国の守護であったため、**(46)**と呼ばれた**(47)**を滅ぼした。その翌年に**(48)**を実現させた義満は、1394年には**(49)**にのぼり、公武で頂点に立つ権力を握った。

③**(50)**[(**51**)6]年に、周防・長門など**(52)**カ国の守護大名であった**(53)**は、**(54)**の**足利満兼**と結んで和泉国堺で反乱を起こしたが、**(40)**の討伐を受け、敗死した。これを**(51)**の乱という。

④1408年に義満が没すると、朝廷から「**太政法皇**」の尊号を贈られたが、これを後継者である**(52)**が固辞した。また、1416年には前関東管領の**(53)**が反乱を起こし、4代鎌倉公方**(54)**に討伐された。これを**(55)**という。

⑤1428年**(52)**が急死し、翌年弟の**(56)**が6代将軍となったが、将軍による専制政治を行い、たびたび幕府と衝突していた鎌倉公方**(54)**の反発を受けた。

⑥関東管領**(57)**が**(54)**をいさめて対立すると、**(58)**[(**59**)10]年、**(56)**は**(57)**を支援して討伐軍を送り、翌年に**(54)**が自害して、この**(59)の乱**は終わった。乱後の1440年、**(54)**の遺臣である**(60)**が、遺子である**春王丸**・**安王丸**を擁して反乱を起こしたが、鎮圧された。これを**(61)**という。

⑦しかし義教も、**(62)**[(**63**)元]年、幕府による有力守護圧迫を恐れた**(64)**国守護**(65)**によって暗殺された。この**(63)の乱**で将軍の権威は大きく揺らいでいった。

(3)中国との貿易(教科書：P.116)

①元寇後も、元との民間の関係は途絶えなかった。1325年、執権北条高時の時代に鎌倉幕府は建長寺修造の費用を得ようと元に建長寺船を派遣し、1342年には、足利尊氏も天龍寺船を元に派遣した。天龍寺は、夢窓疎石のすすめで、後醍醐天皇の冥福を祈るために建立された。

②南北朝の動乱の頃、倭寇と呼ばれた日本人を中心とする海賊集団が、壱岐・対馬・肥前松浦を拠点に、朝鮮半島や中国大陸の沿岸で略奪を繰り返していた。

③1368年、中国で朱元璋[太祖洪武帝]が元を滅ぼし、漢民族の王朝である明を建国すると、諸外国には朝貢を求め、倭寇対策のため、民間貿易を禁じる海禁政策をとった。

④翌年、明が大宰府に使者を派遣し、倭寇禁圧と朝貢を求めると、南朝の征西大將軍懐良親王はこれに応じた。やがて南北朝が合体し、1401年、足利義満は、僧祖阿(正使)と博多商人肥富(副使)に国書を持たせて、明に朝貢し国交を開いた。

⑤翌年、明の永楽帝は「日本国王源道義」あての返書と明の暦を義満に与えた。この暦を受け取ることは、明への服属を意味した。

⑥義満はさらに「日本国王臣源」と署名した国書を送り、貿易許可証の勘合が交付され、1404年、貿易を開始した。

⑦朝貢形式の貿易は、滞在費・運搬費など全て明側が負担したため、日本側の利益が大きく、主に刀剣・銅・硫黄が輸出され、銅銭・生糸が輸入され、これらは唐物と呼ばれて珍重された。

⑧義満の死後、4代将軍義持は朝貢形式に不服として貿易を中断したが、6代将軍義教は貿易の利益を求めて再開した。

(3)中国との貿易(教科書：P.116)

①元寇後も、元との民間の関係は途絶えなかった。1325年、執権北条(64)の時代に鎌倉幕府は(65)修造の費用を得ようと元に(66)を派遣し、1342年には、足利(67)も(68)を(69)に派遣した。(70)は、(71)のすすめで、(72)天皇の冥福を祈るために建立された。

②南北朝の動乱の頃、(73)と呼ばれた日本人を中心とする海賊集団が、壱岐・対馬・肥前松浦を拠点に、朝鮮半島や中国大陸の沿岸で略奪を繰り返していた。

③1368年、中国で(74)[太祖洪武帝]が元を滅ぼし、漢民族の王朝である(75)を建国すると、諸外国には(76)を求め、(73)対策のため、民間貿易を禁じる(77)政策をとった。

④翌年、明が大宰府に使者を派遣し、(73)禁圧と(76)を求めると、南朝の征西大將軍(78)はこれに応じた。やがて南北朝が合体し、(79)年、(80)は、僧(81)(正使)と博多商人(82)(副使)に国書を持たせて、(75)に(76)し国交を開いた。

⑤翌年、明の永楽帝は「(83)源(84)」あての返書と明の(85)を(80)に与えた。この(85)を受け取ることは、明への服属を意味した。

⑥義満はさらに「(86)臣源」と署名した国書を送り、貿易許可証の(87)が交付され、1404年、貿易を開始した。

⑦(76)形式の貿易は、滞在費・運搬費など全て明側が負担したため、日本側の利益が大きく、主に(88)が輸出され、(89)が輸入され、これらは(90)と呼ばれて珍重された。

⑧(80)の死後、4代将軍(91)は(76)形式に不服として貿易を中断したが、6代将軍(92)は貿易の利益を求めて再開した。

(4)日朝貿易(教科書：P.117～P.118)

①朝鮮半島では、倭寇禁圧で名声を高めた李^り成桂^{せいけい}が、1392年、高麗^{こうらい}を滅ぼし朝鮮を建国した。朝鮮は、日本に通交と倭寇の禁止を求め、義満もこれに応じて、対等の国交が開かれた。

②貿易は、対馬の守護宗氏^{そうし}を通して行われ、木綿^{もめん}などが輸入されたが、1419(応永^{おうえい}26)年の応永の外寇^{がいこう}で一時中断した。これは、倭寇の禁圧につとめていた対馬の宗貞茂^{そうさだしげ}が死去したため、倭寇が活発化することを恐れた朝鮮軍が、その根拠地とみなした対馬を襲撃した事件だった。

(5)日明・日朝貿易の衰退(P.117～P.118)

①15世紀後半、幕府の衰退とともに、貿易の実権が幕府から守護大名や寺社に移ると、1523年、堺商人と結んだ細川氏^{ほそがわ}と、博多商人と結んだ大内氏^{おおいち}が主導権を争い、中国の寧波^{ニンポー}で衝突した。

②この寧波の乱後、大内氏^{おおいち}が貿易を独占したが、1551年、家臣の陶晴賢^{すえはるかた}によって大内義隆^{よしたか}が倒されたため、勘合貿易^{かんがふぎ}は断絶し、倭寇が再び盛んになった。

③また日朝貿易も、1510年の三浦^{さんぼ}乃而浦^{ないじほ}・富山^{ふざん}浦^ほ・塩浦^{えんぼ}に居住する日本人の暴動である三浦の乱^{さんぼのらん}を機に衰退した。

(4)日朝貿易(教科書：P.117～P.118)

①朝鮮半島では、倭寇禁圧で名声を高めた(93)が、(94)年、(95)を滅ぼし(96)を建国した。(96)は、日本に通交と倭寇の禁止を求め、義満もこれに応じて、対等の国交が開かれた。

②貿易は、対馬の守護(97)を通して行われ、(98)などが輸入されたが、(99)[(100)26]年の(100)の(101)で一時中断した。これは、倭寇の禁圧につとめていた対馬の宗貞茂^{そうさだしげ}が死去したため、倭寇が活発化することを恐れた朝鮮軍が、その根拠地とみなした(102)を襲撃した事件だった。

(5)日明・日朝貿易の衰退(P.117～P.118)

①15世紀後半、幕府の衰退とともに、貿易の実権が幕府から守護大名や寺社に移ると、(103)年、堺商人と結んだ(104)と、博多商人と結んだ(105)が主導権を争い、中国の(106)で衝突した。

②この(106)の乱後、(107)が貿易を独占したが、(108)年、家臣の陶晴賢^{すえはるかた}によって(109)が倒されたため、(110)は断絶し、倭寇が再び盛んになった。

③また日朝貿易も、(111)年の(112)[(113)・(114)・(115)]に居住する日本人の暴動である(116)を機に衰退した。